

ガラケー人気 細く長く

出荷占有率 4割 10月

スマートフォンの急成長が続く中、従来型の携帯電話が根強い人気を維持している。仕事で電話を頻繁に使うサラリーマンやスマホを敬遠する中高年の間で、電池が長持ちして通信料も安い従来型を支持する向きが多いからだ。10日発表された統計でも従来型携帯が国内出荷に占める割合は4割と、存在感は大きい。

(森田将孝、写真も)

都内の家電量販店の携帯電話コーナーを訪れた会社



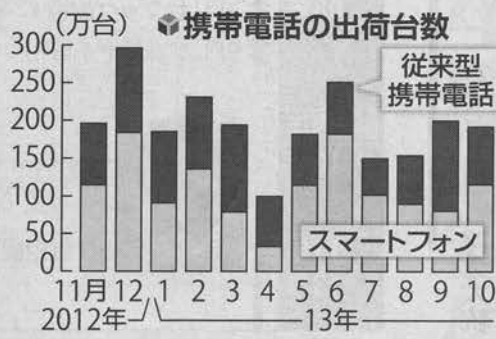
電池長持ち 安い通信料

ガラケー「ガラパゴス携帯電話」の略。独自の生態系を育んだガラパゴス諸島の生物のように日本独自の機能を多く搭載したが、世界標準にはならなかった。

NTTドコモが冬春商戦で新たに発売した2種類の従来型の携帯電話

調査会社・MM総研の意識調査では、従来型の利用者からは①スマホより料金が安い②通話とメールだけでなく電池が長持ちする③使い慣れていて操作が簡単④などの声が聞かれたという。スマホの普及は今後

によると、10月に出荷された携帯電話は約192万台で、そのうちスマホは6割、従来型は4割を占めた。携帯電話大手3社は、従来型からスマホへの買い替えを促す戦略をとっているが、この1年で出荷の約6割が従来型という月もあった。



2017年度は従来型が出荷台数に占める割合は2割弱、契約数だと3割強と一定の需要を見込んでいる。従来型の人気は、中古市場でも鮮明になっている。インターネットなどで中古携帯電話の売買をしているアワーズ(東京都千代田区)では、10月は従来型は買い取りが約1400台、販売が約900台と、いずれも右肩上がりが続いているという。以前使っていたタイプを求めて中高年が数年前のモデルを購入するケースもあるようで、粟津浜一社長は、「従来型の需要は残り続けるだろう」と話している。

けいざいの	9月	10月
鉱工業生産指数☆	1.3	0.5
大口電力需要	▼1.1	2.4
商業販売額(小売業)	3.0	2.3
新設住宅着工戸数	19.4	7.1
企業倒産(件)	817	918
消費支出	3.7	0.9
新車国内販売台数	12.4	17.3

▼はマイナス。単位なしは鉱工業生産指数は前月比。